

困難なことかもしれませんが、 子どもの命を真ん中に置いて考えましょう、と。

事故の当事者であるはずの石巻市教育委員会では、学校で多くの児童、先生が犠牲になったことを本当に重く受け止めているのかと、疑わざるを得ない対応が重ねられました。

聞き取り調査のメモは廃棄、やりとりしたメールは削除、やがて「時間が経って、よく覚えていない」という言葉も目立ちました。助かった子どもたちが、犠牲になった友達のために一生懸命話してくれた証言もいくつか消されています。「今後検討します」と回答した担当者は次々に転出していきました。

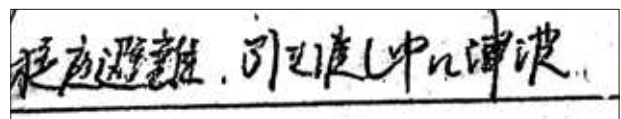
「子どもの命を真ん中に置いて考えましょう」と呼びかけてきました。学校も市教委も文科省も報道も、そして遺族も「命」にしっかり向き合い、力を合わせていかなければなりません。たしかに困難かもしれませんが、目を背けたいことかもしれません。しかし、一番つらかったのは、寒い校庭で津波の恐怖におびえながらじっと待っていた子どもたちです。

巨大な黒い波が襲ってきたときの子どもたちを思えば、道はひらけてくると信じています。

「引き渡し中に津波」という報告

2011年3月16日、当時の柏葉校長は市教委に向き「引渡し中に津波」「油断」という報告をしました。しかしその事実は、手書きの報告書が2012年5月に出てくるまで、1年以上隠されてきました。「引渡し中」つまり、ほとんど逃げていないことが早い段階で分かっていたのに、市教委は遺族に「12分前に避難したようだ」と説明していたのです。

ところが校長は、この「引渡し中に津波」がきたという重要な証言を「避難所かどこかでの側聞」と



事故当日から提訴までの石巻市教育委員会の対応など

2011	3月11日	東日本大震災		3月18日	第4回説明会 ●避難開始は津波到達1分前に訂正 ●今後も話し合いを続けることを確認	
	3月15日	校庭にいて助かったA教諭と当日不在だった校長がメールでやりとり（メールはその後削除された）		4月	市教委の2人の担当者がともに転出	
	3月16日	校長が市教委に「引き渡し中に津波・油断」と報告（※この報告書の存在は翌年5月まで明らかにされなかった）		5月	情報開示により、2011年3月16日の報告書*の存在が明らかに	
	3月17日	校長、震災後はじめて学校へ		6月初旬	市が第三者検証委員会の設置を議会に提案。遺族の合意がなかったため、凍結。	
	4月9日	第1回保護者説明会（非公開） 市教委は地震による倒木のため山に避難しなかったと説明（実際は倒木はなかった）		6月16日	遺族有志記者会見	
	5月	市教委が、助かった児童に聞き取り調査		8月21日	市教委、はじめて現場検証	
	6月4日	第2回説明会（非公開） 聞き取り調査をもとに説明 ●倒木があったように見えたに訂正 ●避難開始は津波到達12分前と説明 ●時間で打ち切り、説明会はこれで最後と発表		9月5日	文科省が大川小事故の検証の方針発表（凍結していた検証委員会を文科省主導で立ち上げることに。ただし予算は石巻市）	
	8月21日	「市教委、聞き取り調査のメモすべて廃棄」が報道で明らかに。		10月28日	第7回説明会 遺族有志が考察を発表。検証のポイントを示す。	
	2012	1月22日		第3回説明会（遺族が協議し報道に公開） ●2011年6月3日にA教諭から学校に届いたとされるFAXを公開 ●避難開始は津波到達7分前に訂正	11月3日	検証委員会設置説明会
					2013	2月6日
2014	3月10日		11月30日	小さな命の意味を考える会発足		
			3月1日	検証委員会最終報告書提出		
				23名の遺族が県と市を提訴		

し、聞いた相手が「男性か女性か」「大人か子どもか」その時の様子を何一つ覚えていないと言います。

倒木は一本もない（第1回説明会の矛盾）

2011年3月11日の震災以降、市教委・学校から遺族に対して経緯の説明はなく、その予定もありませんでした。

震災約1か月後の4月9日、ようやく1回目の説明会が行われました。非公開で行われた上、録音録画もせず、議事録も作られませんでした。遺族の録画データを借りて、1年以上経ってから議事録が作成されました。震災後の混乱の中とはいえ、誠意のない杜撰な対応と言わざるを得ません。

学校と市教委は「山は地震の揺れで倒木があり避難できなかった」と説明しました。唯一の生存教諭A先生も「バキバキと木が倒れてきた。」と話しました。実際は地震による倒木は1本もありません。

A先生の証言はその他も矛盾だらけでした。指示を受け、「言わされた」のだと思います。

聞き取り調査時のメモ廃棄

2011年5月に、助かった児童へ聞き取り調査が行われました。その時、複数の児童が「山への避難を訴えていた先生や子どもの存在」について証言しています。子どもたち自身に危機感があったことを示す大切な証言です。子どもたちは危機を察し、逃げたかったのです。

ところが、市教委の正式な聞き取り報告書には、この証言は載っていません。報告書にはコピー&ペーストしたような項目ばかりが並んでいます。聞き取り調査のメモ書き等は一斉に廃棄したとのことで、もちろん録音もありません。

記録にないので、説明会や検証委員会でも事実が曖昧になってしまいました。

説明会は2回だけの予定だった

2回目の説明会は6月4日。5月に児童などに行った聞き取り調査をもとにした説明があり、「倒木」は「あったように見えた」に訂正されました。

市教委は、質疑応答の途中で、時間だからと一方的に説明会を打ち切りました。その上、マスコミには「遺族は納得した」と答え、今後説明会はないと発表しました。



消された証言

第2回説明会（2011年6月4日）で、市教委は「津波はすごい勢いで子どもたちを飲み込んだり水圧で飛ばしたりした。後ろの方で手をつないだりしていた低学年の子どもたちも津波に飲みこまれた。ほとんど同時に学校側からも津波が来て、学校前は波と波がぶつかるように渦をまいていた」と説明しました。かなり具体的で、この状況を見ていた人がいたことを示す重要な証言ですが、その後の市教委の報告書からは消え、検証委員会でも無視されました。

また、「『ここって海沿いなもの』という女子、『山さ逃げよう』という男子がいた」と説明していますが、2012年3月には「そのような事実はおさえていない」と説明を変えました。聞き取り報告書には記載されていないし、調査メモは廃棄。市教委は「記憶は変わるもの」と子どもの証言を否定しました（子どもの証言は震災から2か月目。記憶が変わってしまうような時期のものではない）。

その他にもいつの間にか消えたり、曖昧になっている証言がいくつもあります。

謎のファックス

第2回説明会（2011年6月4日）の前日にA先生から届いた「保護者の皆様へ」というFAXが、7か月後の第3回説明会（2012年1月22日）で突然公表され、丁寧なことに報道にも配られました。

病気療養で面会謝絶の人が書いたとは思えない長文で、わざわざ自筆の署名が入っていました。当時、このFAXの存在は教育長にも知らされず、市教委の中で2、3人だけが知っていたとのこと。

FAXは学校に届いたとされていますが、受け取った状況を校長は説明できませんでした。校長は学

校に届いたFAXを市教委にFAXで送ったと言いますが、市教委は校長が持参したと言います。その日の学校日誌には記載がありません。謎だらけです。

「言うなよ」のサイン

助かった複数の児童が「山への避難を訴えていた子がいた」と市教委の聞き取り調査で証言しており、取材にも答えています。ところが、市教委の報告書からはそのことが削除されました。

第6回説明会（2012年8月）でその点を問うと、応答していた市教委の指導主事に、上司が何度も口に指をあて「言うな」と指示をしていました。後日指摘されると「私は考えごとをするとき口に指をあてる」と答えました。



河北新報の記事より▶

市教委の担当課
長は取材に対し「考え事
をしているときの自分の
癖ではないか。隠蔽の意
図はない」と釈明した。



◀3月の学校の裏山。
草はない。

▼市教委が説明で使った
写真は、草ぼうぼうの7月。



前校長、休職の教諭と面会
大前小 市教委も知らず
市教委は、3月11日の地震発生後、大前小学校の校長と教諭と面会し、校長が面会謝絶のA教諭と会っていたことが明らかになった。

◀2012年10月28日の説明会では、
校長が面会謝絶のA教諭と会っていた
ことが明らかになった。

事故や問題が起きたとき、できるだけ穏便に収束を図るのが「慣例」なのであれば、今こそ変えるのです。ましてや、学校で失われた子どもや先生の命を、嘘や言い訳で語るべきではありません。市教委の先生方も本心では分かっているはずです。

ボタンを掛け違えた場所は分かっています。それを認め、やり直すべきです。遅すぎることはありません。学校が「子どもを守り、輝かせる」場として信頼されるために、私たちは発信と対話を続けます。

忘れようとしな

5年経って、世の中は変わろうとしています。
何かが変わったかもしれないし、
あの日から止まったままのような気もします。
節目があるとすれば 3.11の前と後、それだけ。

変わろうとすることは、忘れようとするのではなく
忘れないことで、気づいたり、見直すことだと思っています。

あの日の夕方は中学の制服を受け取りに行くはずでした。
袖を通して喜ぶ姿、見たかったなあ。
今日もたくさんの方が訪れ、想いを寄せてくださいます。



2016.03.23